

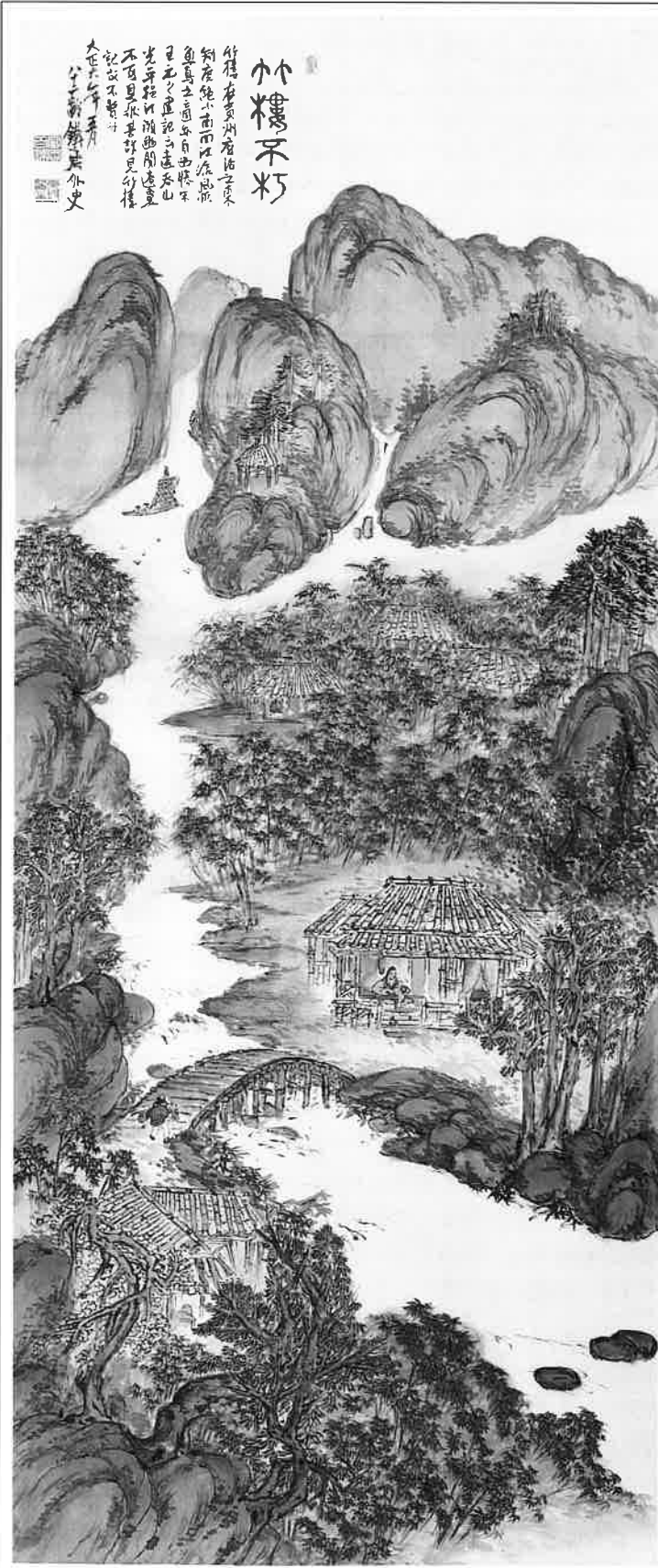
鉄斎

秋季特別展

会期

10月13日(木) ~ 12月14日(水)

月曜日休館



鉄斎 ——— その鑑賞の一助 ———

鉄斎芸術鑑賞の手引きとしては、これまでも多くのことどもが語られてきている。就中、“鉄斎の特質”なる問題提起の仕方や評論は、「比較」の語を冠する多くの学や、「体系」を意識しその中における本質把握を求める今日的な方法を背景に、しばしば登場してはそれぞれが有効な解説を成してきた。ただ、今それを繰り返すことは限られた紙数では無理であるし、何といても人には人の個性があり、各々の視座や芸術観、さらには人生観までを披瀝したそれらが、鑑賞者のひとりひとりにうまくかみ合うとは限らない。その上、鉄斎芸術のひととおりでない巨きさは、単純な切り込み方では所詮説得力を欠いたものとなりがちなので、それでは一部を語ったに過ぎぬ、という憂慮が働き、普遍性を求めようとすれば饒舌が避けられなくなる。しかし“展観”を通じればその多面的な鉄斎作品が具体的に鑑賞できるので、ここではこの“特質”なるもののうちごく理解し易い一面をのみ枚挙する。つまり作品は観る人によって本来はさまざまにとらえられるという自明の事を前提とし、相対的な意味しか持ち得ない解説はあくまでも鑑賞の一助として頂きたい。

I. 一定の様式のないこと

通常、芸術作品には、その作が位置すべき様式上の座標がある。しかし鉄斎の場合、この様式分類の方法は非常に難しいし、危険でさえある。それは鉄斎が師承する一定の流儀や画技上の主義をもたず、またその弟子たる人の名を見出せぬところからも明らかである。世に「文人画」ともいうが、先蹤的な意味でのいわゆる江戸時代文人画、たとえば大雅を代表とするそれとひき較べてみても、或いは本家中国のそれを思いうかべても、部分的には共通項を見出したり同じテーマを発見するものの、鉄斎の作品は勿論それだけの範囲ではない。鉄斎の作品は、あくまでも鉄斎そのものであって、誰かれのものでないことは作品自体が強く語っているところである。いわんや、大和絵風、大津絵風ということになれば、如何にも扱い難く、ここに近代美術史上での、“流れ”や“集合”の



30 通天紅葉図

論理にはいらず、しばしば独立して扱われる所以がある。これは要するに、鉄斎が若年の頃より多方面の作品を積極的に研究し、しかも独学であったが故にきわめて公平にこれらを修得できたのであろうと思われる。しかも観ること写すことへの性来の好奇心や執着心は自然に画技の道を向上させた筈である。事実としては数多く遺された粉本や下絵類にその証しが看取される。すなわち仏画、歴史画の古典から始めて、もとより文人画の山水を含め人物花鳥、そして写生画派による作品をさえ克明に追究模写、あるいは記録にとどめるという過程である。加えて忘れてはならないことは、その蒐集にかかる古書籍の挿絵からの換骨奪胎、といえはやや聞こえは悪いが、実は古い版本においてはその内容の重要性にもかかわらず、およそそれらの挿絵などは無名の画人の手に成るもの故全く通俗的な図が多いのだが、それらの絵に血肉を与え、新鮮な芸術性を与えて名作としてしまう手際の良さも鉄斎においてはしばしば見られるところで、この方法もまた在来の他の絵画の方法と異なるところである。かかる結果、歴史や故事にまつわる作品がきわめて真実味を帯びて登場するわけで、これらを絵画技法上から一つの既成の流儀に当てはめることはできず、結局、鉄斎自身の様式といわざるを得ないということになる。

I. 理想の美学

鉄斎が学問、特に儒学を志して身を立てようとしたことは夙に知られているところであり、終生その姿勢が変らなかつたことも現在周知知られている。したがって、日本・中国を問わず、古典への親しみは日常のことで、その結果、そうした書物から触発されて成った作品は数多く、それが「必ず出典あり」とされている所以であり、故に「絵を見る前に賛を読む」という求めもきわめて当然のことと思われる。しかし、およそ近代絵画史のうちにある鉄斎でもあれば、近代的絵画観の立場を導入してその作品を評釈するのが当然であり、絵を以て絵に語らせるとするのが最も今日的な方法である筈のところ、鉄斎に限ってはそれではいかにも表面的であり、理解したことにはならないのである。こうした反近代性にもかかわらず、一方では益々一般的な敬愛をさえあつめつつある鉄斎作品の魅力というもの、いいかえれば他者との違いは何処にあるのであろうか。その答はまず第一義的には、すなわちその「意味するところ」の深さにある、といい得るであろう。しかもその意味するところは単なるストーリーでないことは勿論で、人をして再考、三考を強いる内容を持っているのである。このように「賛を読む」ことは意味内容への導入ということであり、絵画本来の構図設色とはこの場合、その意味内容の具現ということとなる。構図設色が高度な技術に支えられているか否かは第二義的な問題であり、その精神的な高貴性が、表象された書画に十二分に同調した時、それは傑作といえる作品になるのである。鉄斎の博覧強記は多くのものを知識として蓄えたが、もとより知識のための知識の集積では何ものも生まれなかつたであ



112 武陵桃源図

ろう。しかしそのうちから幾つかの倫理的な思想を撰択した場合、それは一貫した題材として画面に定着させることができたに相違ない。こうして成った画面に高適な理想主義が見出されるからこそ、多くの人々が尊敬し、現代なお共感をよんでいるのであろう。そしてそれらは時には激しく情熱的に、時には優雅に情感的に人々の理性に訴えかける。人々は賛の意味内容にひかれ、多様な書体と画態の不思議な均衡にそれらを理解し、最終的にはその理想主義に感動を覚えるのである。

I. 長寿の福

周知のように鉄斎は89才の長寿を全うした。しかもこのながい人生を通じ、遺作は晩年の10年、つまり80才代に多く、また世上の評価も最も高い。それは齢を重ねるにしたがって、その芸術がますます融通性に富み、しかも精力的に充実の度を加えたという稀有な軌跡による。しかし鉄斎自身の生活はきわめて淡々と世間の需めに応じていたように思われる。それはこの時代を代表する仙境図のかずかずによって看取されるのである。それら仙境図は鉄斎のこの長寿にあやかりたいという希望を持つ人々によって支持されたが、同時に若いうちから俗塵を嫌い、だからこそ学問三昧に打ちこんだ鉄斎の待ちのぞんだ境涯でもあった。老いてますます人間社会から離れ、心身ともに仙界に赴くのはしたがって鉄斎の必然であったといえる。今、我々はこれをごく自然に、あたかも予定調和のように見るのは、やはり多くの人々がそうありたいと願うからであろう。そのような宇宙を創り出し、人々をして鉄斎を己れの代弁者と思わせること、これはひとえに長寿の福というものであり、あるいは最も東洋的な芸術観照のあり方ともいい得るであろう。

《出品目録》

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・彩色	形状	
1	秋景山水図	1864 (元治1)	29	111.7×30.1	紙本淡彩	掛軸	
2	名花十友図	1866 (慶応2)	31	122.0×50.5	紙本着色	掛軸	
3	蔬菓図	1866 (慶応2)	31	15.8×244.0	紙本墨画	卷子	
4	大津絵図	1867 (慶応3)	32	133.0×48.8	絹本淡彩	掛軸	
5	松雪図	蓮月尼歌賛	1867 (慶応3)	112.3×29.5	紙本淡彩	掛軸	
6	ひのな図	蓮月尼歌賛	1868 (慶応4)	113.8×30.4	紙本墨画	掛軸	
7	隠逸畸人図	1868 (明治1)	33	141.0×51.4	紙本淡彩	掛軸	
8	花瓶図	蓮月尼歌賛	1869 (明治2)	135.5×30.6	紙本墨画	掛軸	
9	花卉図	1869 (明治2)	34	125.4×41.9	紙本墨画	掛軸	
10	群卉競芳図	1869 (明治2)	34	126.5×70.4	絹本着色	掛軸	
11	越溪観楓図	1869 (明治2)	34	136.7×48.2	紙本着色	掛軸	
12	養蚕・農作図	1869 (明治2)	34	(各)129.4×44.2	紙本淡彩	掛軸	
13	淵明隠栖図	不詳	30代	139.1×50.6	紙本淡彩	掛軸	
14	空江独釣図	不詳	30代	106.2×38.3	紙本淡彩	掛軸	
15	蔬菓図	不詳	30代	138.2×48.1	絹本着色	掛軸	
16	蘇公泛舟図	不詳	30代	116.9×34.0	絹本着色	掛軸	
17	陽羨清韻画冊	不詳	30代	(各)21.0×28.6	紙本淡彩	画帖	
18	陽羨茗壺帖	不詳	30代	(各)24.8×27.0	紙本淡彩	画帖	
19	美人愛蘭図	1872 (明治5)	37	105.0×47.0	紙本着色	掛軸	
20	砧打図	1872 (明治5)	37	125.8×47.2	紙本淡彩	掛軸	
21	漁楽図	1876 (明治9)	41	133.3×58.4	紙本淡彩	掛軸	
22	船上山還幸図	1877 (明治10)	42	17.7×118.3	紙本墨画	卷子	
23	畝傍山御陵之図	不詳	40代	113.0×52.0	紙本淡彩	掛軸	
24	峨山春晓図	不詳	40代	144.6×57.1	絹本着色	掛軸	
25	秋山煙靄図	不詳	40代	121.0×34.4	紙本淡彩	掛軸	
26	層巒積翠図	不詳	40代	138.1×40.2	紙本墨画	掛軸	
27	筑波山真景図	不詳	40代	136.3×52.2	紙本着色	掛軸	
28	売卜者図	不詳	40代	130.6×49.4	紙本淡彩	掛軸	
29	貧窮問答図	不詳	40代	34.9×222.1	紙本淡彩	卷子	
30	通天紅葉図	1882 (明治15)	47	138.4×55.0	絹本着色	掛軸	
31	北野大茶湯図	1882 (明治15)	47	31.1×535.3	紙本淡彩	卷子	
32	雪舟逸事卷	1890 (明治23) 1889 (明治22)	55 54	28.4×413.3 25.5×243.3	紙本着色	卷子	
33	安宅関図	幸野梅嶺賛	不詳	50代	135.9×61.7	紙本着色	掛軸
34	双寿搗餅図	不詳	50代	129.0×55.8	絹本着色	掛軸	
35	大嘗会・釈奠図	不詳	50代	(各)130.6×60.3	絹本着色	掛軸	
36	楠公訓子図	不詳	50代	118.1×35.4	絹本着色	掛軸	
37	鳩峰・五瀬・春日三景図	不詳	50代	(各)127.2×50.3	絹本着色	掛軸	
38	富貴国香図	不詳	50代	117.0×48.6	絹本着色	掛軸	
39	有喜大尽図	不詳	50代	(各)16.6×50.8	紙本着色	扇面掛軸	
40	月瀬図	不詳	50代	19.0×342.1	絹本着色	卷子	
41	湘君図	1894 (明治27)	59	141.4×48.7	紙本着色	掛軸	
42	梧陰高士図	1895 (明治28)	60	129.3×32.8	紙本淡彩	掛軸	
43	鶏図	1897 (明治30)	62	124.3×34.3	紙本淡彩	掛軸	
44	牧谿嗜酒図	1897 (明治30)	62	132.0×32.8	紙本着色	掛軸	
45	大秦牛祭図	1897 (明治30)	62	149.0×53.0	紙本着色	掛軸	
46	醉鐘馗図	1900 (明治33)	65	113.0×40.6	紙本着色	掛軸	

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・彩色	形状
47	前後赤壁遊図	不詳	60代	(各)129.8×52.0	絹本着色	掛軸
48	塙像菅公像	不詳	60代	120.7×30.8	紙本着色	掛軸
49	宗旦狐図	不詳	60代	136.5×31.2	紙本淡彩	掛軸
50	蔬菜図	不詳	60代	27.7×146.8	絹本着色	卷子
51	謝蕪村書卷	1902(明治35)	67	18.0×380.0	紙本淡彩	卷子
52	茶僊溪居図	1903(明治36)	68	147.3×50.5	絹本着色	掛軸
53	麻姑女僊図	1905(明治38)	70	126.6×49.0	絹本着色	掛軸
54	阿多福図	1906(明治39)	71	141.2×35.7	絹本着色	掛軸
55	楽此幽居図	1906(明治39)	71	154.0×48.8	紙本着色	掛軸
56	壺天図	1906(明治39)	71	122.8×46.4	紙本淡彩	掛軸
57	梅溪清隠図	1910(明治43)	75	139.3×39.9	絹本着色	掛軸
58	秋草図	不詳	70代	68.5×62.0	絹本淡彩	掛軸
59	蝦夷人熊祭図	不詳	70代	135.5×41.7	紙本着色	掛軸
60	蘆雁図	不詳	70代	136.5×68.4	紙本淡彩	掛軸
61	庸軒茶博赴堅田詩幅・同図	1911(明治44)	76	(各)113.5×29.8	紙本墨書・墨画	掛軸
62	富士山図	1912(明治45)	77	50.8×61.7	紙本墨画	掛軸
63	鯉魚図	1914(大正3)	79	143.8×40.7	紙本墨画	掛軸
64	静観楽事帖	1914(大正3)	79	(各)10.7×25.3	紙本着色	画帖
65	佳実図	1915(大正4)	80	129.4×29.9	紙本着色	掛軸
66	萬世不易平安城図	1915(大正4)	80	54.6×67.8	紙本墨画	掛軸
67	菊花図	1915(大正4)	80	36.4×48.3	紙本着色	掛軸
68	休師訪ノ貫図	1915(大正4)	80	129.4×64.3	紙本墨画	掛軸
69	十牛図意図	1916(大正5)	81	150.8×51.4	絹本着色	掛軸
70	山居静観図	1916(大正5)	81	152.2×43.8	紙本着色	掛軸
71	鳳鳴朝陽図	1916(大正5)	81	143.0×41.6	絹本着色	掛軸
72	遊山翫水図	1916(大正5)	81	146.2×39.0	紙本淡彩	掛軸
73	猛虎図	1917(大正6)	82	141.8×53.3	紙本着色	掛軸
74	王元之竹楼記図	1917(大正6)	82	169.6×70.8	絹本着色	掛軸
75	群僊集会図	1917(大正6)	82	139.6×36.2	絹本着色	掛軸
76	無限評古図	1917(大正6)	82	(各)19.5×65.0	紙本淡彩・墨書	扇面掛軸
77	献珠成仏図	1917(大正6)	82	73.3×67.2	絹本着色	額装
78	聚沙為塔図	1917(大正6)	82	73.2×66.0	絹本着色	額装
79	三老吸酢図	1918(大正7)	83	137.7×40.2	紙本淡彩	掛軸
80	覚猷僧正修法図	1918(大正7)	83	16.5×52.8	紙本墨画	扇面掛軸
81	角力図写芭蕉句意	1918(大正7)	83	16.5×53.4	紙本淡彩	扇面掛軸
82	東坡談図	1918(大正7)	83	(各)26.2×37.4	紙本着色	画帖
83	葛井故宅図	1919(大正8)	84	116.5×42.2	絹本着色	掛軸
84	盧仝喫茶図	1919(大正8)	84	42.0×50.2	絹本着色	額装
85	蝸牛廬図	1920(大正9)	85	124.8×32.0	紙本淡彩	掛軸
86	東坡捫腹図	1920(大正9)	85	129.6×31.3	紙本淡彩	掛軸
87	懷素書蕉図	1920(大正9)	85	129.1×31.7	紙本淡彩	掛軸
88	漁隠清忙図	1920(大正9)	85	132.0×32.1	紙本淡彩	掛軸
89	歲寒二雅図	1920(大正9)	85	132.3×33.6	紙本淡彩	掛軸
90	竹窓聽雨図	不詳	80代	181.0×114.2	紙本墨画	掛軸
91	踏雪沽酒図	不詳	80代	128.7×33.5	紙本墨画	掛軸
92	長福寺略図	不詳	80代	25.7×74.0	紙本墨画	卷子

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・彩色	形状
93	布袋遊戯図	1921 (大正10)	86	130.4×31.5	紙本墨画	掛軸
94	吉野乃面影図	1921 (大正10)	86	123.2×30.6	紙本墨画	掛軸
95	盆蘭図	1921 (大正10)	86	132.0×32.0	紙本淡彩	掛軸
96	真愛山居図	1921 (大正10)	86	145.8×39.2	紙本淡彩	掛軸
97	竹窓聴雨図	1921 (大正10)	86	17.6×53.0	紙本淡彩	扇面掛軸
98	静坐息機図	1921 (大正10)	86	17.6×53.0	紙本着色	扇面額装
99	径山寺図記	1921 (大正10)	86	33.5×180.2	紙本墨画	卷子
100	仿米・岳峙淵渟図	1921 (大正10)	86	(各) 25.3×40.1	紙本淡彩	画帖
101	山居安楽図	1922 (大正11)	87	130.7×32.6	紙本淡彩	掛軸
102	魁星閣図	1922 (大正11)	87	37.9×52.4	紙本墨画	掛軸
103	前赤壁図	1922 (大正11)	87	155.2×43.0	紙本淡彩	掛軸
104	赤壁四面図	1922 (大正11)	87	155.6×42.7	紙本淡彩	掛軸
105	後赤壁図	1922 (大正11)	87	146.6×40.4	紙本淡彩	掛軸
106	陸茶僂品水図	1922 (大正11)	87	133.0×32.4	紙本淡彩	掛軸
107	羅漢図	1922 (大正11)	87	71.1×66.8	絹本着色	額装
108	麻姑僂女像	1923 (大正12)	88	131.1×32.4	紙本墨画	掛軸
109	水郷清趣図	1923 (大正12)	88	130.7×31.0	紙本淡彩	掛軸
110	瓢中快適図	1923 (大正12)	88	132.2×31.8	紙本淡彩	掛軸
111	觀瀑滌心図	1923 (大正12)	88	131.8×32.0	紙本墨画	掛軸
112	武陵桃源図	1923 (大正12)	88	155.5×43.0	絹本着色	掛軸
113	杏花村莊図	1923 (大正12)	88	38.0×28.0	紙本淡彩	額装
114	松芝不老図	1924 (大正13)	89	150.3×40.0	紙本淡彩	掛軸
115	猿猴捉月図	1924 (大正13)	89	131.0×32.1	紙本墨画	掛軸
116	忠孝雙全図	1924 (大正13)	89	132.9×33.2	紙本着色	掛軸
117	米老幽栖図	1924 (大正13)	89	131.8×33.3	紙本墨画	掛軸
118	絵島・煎茶図	1924 (大正13)	89	(各) 65.8×20.6	紙本墨画	掛軸
119	西湖全景図	1924 (大正13)	89	141.2×39.0	紙本淡彩	掛軸
120	桃鶯図	1924 (大正13)	89	130.6×32.3	紙本淡彩	掛軸
121	漁家快樂図	1924 (大正13)	89	132.6×33.3	紙本淡彩	掛軸
122	富而不驕図	1924 (大正13)	89(90)	38.0×28.0	紙本着色	額装
123	富士山図	1924 (大正13)	89(90)	45.0×61.0	紙本木炭	額装
124	鶯宿梅図	1924 (大正13)	89(90)	16.6×53.8	紙本淡彩	扇面額装
125	瓶菊図	1924 (大正13)	89(90)	16.6×53.8	紙本着色	扇面額装

出品作品は期間中下記の通り三回にわけて展示いたします。

但し一部作品は重複することがあります。

第一回 10月13日(木)～10月30日(日)

第二回 11月1日(火)～11月20日(日)

第三回 11月22日(火)～12月14日(水)

12月15日(木)から翌1月14日(土)まで休館いたします。